

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	その人らしい生活支援と、住み慣れた地域での安心した生活を支えるための事業所理念を策定している。		地域とのつながりや、その人のペースに合わせた、その人らしい生活支援を心がけている。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に意識して実現できるよう、日々のミーティング等で話し合いを持っている。介護に対する考えなどが話され、具体的なケアについて意志統一や話し合いがされている。		理念の実現に向けて、共有しながら、日々自分たちのケアについて意見交換がなされている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設職員の勉強会に参加していただき、理念や日ごろのケアの取り組みについて理解してもらえるような機会をつくっている。		今後も、地域の方や家族、利用者、職員との交流の機会を作り、ホーム運営や取り組みを理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の家と庭先で、取れた野菜のおすそわけをしている。施設行事に参加の声がけを行っている。		近所付き合いや、運営推進会議などを通し、積極的に地域の方との交流を深め、もっと日常的な付き合いができるよう取り組んでいきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。地域行事(お祭り・夏祭り盆踊りなど)に利用者と共に積極的に参加している。		積極的に地域行事に参加し、地域の方との交流の場を増やしていきたい。運営推進会議で年間の行事予定を確認し、互いに参加し合えるよう調整していきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	資源ゴミの回収や、不審者・変質者から児童を守るための「防犯協力店」としても協力している。運営推進会議で何か協力できることはないか、話し合う機会を作っている。		運営推進会議で協力出来る事はないか積極的に声をかけていき、可能な限り地域に貢献していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価・外部評価の意義や目的を伝え、職員全員で自己評価に取り組み話しあっている。評価を自分たちのケアを見直す機会をして、改善に向けて話し合い取り組んでいる。</p>	<p>自分たちのケアの振り返りの機会としてケアの向上に活かしていきたい。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>評価の報告や取り組みについて伝えると共に、地域の方からでた意見もふくめ、運営推進会議で話し合い改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議で積極的に評価の報告や、改善への取り組みを報告し、そこでの意見を取り組みにいかしていく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>新しい情報を教えて頂いたり、参考資料がファックスで届くため、それを職員間で、目を通し、日々のケアの中で活用している。また、実地指導で指導を受けた事に対しても、早急に改善を行い取り組んでいる。</p>	<p>今後も積極的な情報提供と課題解決に取り組んで生きたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域の方や家族の方にも声をかけ、職員と一緒に学ぶ機会を作っている。勉強会や研修などで理解を深めているところ。活用できるよう支援するところまではできていない。</p>	<p>研修への参加や勉強会でテーマに取り上げるなどして理解を深めていきたい。必要な人には活用できるよう支援していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>関連資料を配布し職員全員が目を通すようにしている。日々のミーティングやカンファレンス等で、自分たちのケアの振り返り意見交換をおこない防止に努めている。</p>	<p>今後、勉強会や研修に参加し理解を深めていく。常にケアの振り返りをし防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居、退居の際に説明している。</p>	<p>疑問・不安がないかを尋ね、納得した上で契約を結んだり、解約を行っていく</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情の利用の仕方を口頭と重要事項説明書に図式をのせ説明している。要望や苦情については、対応策を速やかに検討し、実施・対応している。		関りの中で利用者の思いをくみ取り、改善に努めていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用者ごとにお手紙を送っている。毎月の介護計画書や日ごろの様子がわかるよう写真や広報誌なども同封している。また、体調の変化や病院受診などは状況に応じて電話連絡を行っている。定期的におこずかい帳の確認をしていただきサインを頂いている。		家族が知りたい点を考慮しながら、定期的に、また状況に応じて利用者の事を報告していく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情の利用の仕方を口頭と重要事項説明書に図式をのせ説明している。また、面会時に気軽に伝えられる機会を設けている。要望や苦情については、速やかに改善に努め、今後も積極的に伝えてもらえるようにしている。		契約時に外部者への相談・苦情の仕方を説明している。面会時に積極的に声をかけ、気付いた事が言いやすい様な関係作りに努め、家族からの思いを受け止め改善に努めていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員と話す機会を作り、職員の思いをくみ取るようにし、思いにそえるよう努力している。		職員が働きやすい環境がつかれるよう職員の意見を反映させていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度、職員で話し合い可能な限り対応している。		状況に応じて可能な限り柔軟に対応していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニット職員は固定化し馴染みの職員が対応できるよう体制を整えている。交代時には、引継ぎ時間をかけたり、利用者への紹介などで最善の努力はしている。		馴染みの関係を大切にし、異動、離職は最小限に抑えていきたい。代わるときは利用者、家族に影響がないよう配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修、勉強会への参加や、施設内での勉強会を行っている。申し送りや日々の業務の中で指導や助言・資料提供をしている。		職員の経験年数や状況に応じて研修への機会をつくって行く。また、事業所内での勉強会も、職員が何を学びたいの知りたいのかを聞き、スキルアップにつながる内容を検討していきたい。今後も参考となる資料は提供していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	連絡会があり情報の交換や交流、勉強会を行っている。また、他事業所と勉強会を行い、事例検討などを通して互いのサービス向上を目指し、実践に活かしている。		他事業所との情報交換の場をもち、交換研修など行き互いの良い所を取り入れ互いのサービス向上に活かしていく。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ユニットから離れてくるろげる場所がある。職員の親睦会を設けたり、他のグループホームの職員との交流も行っている。		職員がストレスをためないよう配慮していきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の仕事に対する姿勢や、努力を評価し、向上心をもって働けるよう努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	職員が自宅や病院に向いて、本人に話を聞く機会を作り、本人の気持ちを受け止め、その情報をもとに施設での生活を快適に過ごしてもらえよう配慮している。		本人が安心できる関係作りに努めていきたい。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	家族とゆっくり話す機会を設け、家族の気持ちを受け止め、施設での生活に家族が安心できるよう配慮している。		家族の思いを受け止め、より良い関係を築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用を含めた対応は行っていない。		本人、家族の要望がある時は支援していきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心してもらえるよう、職員が自宅に出向き顔を知ってもらおうようにしている。家族と事業所の見学をしたり、一緒に食事を摂ったり少しづつ慣れてもらえるようにしている。止むを得ず、すぐの入居となった場合は家族や、関わっていた関係者に来てもらうなど配慮している。		家族と相談しながら、本人が馴染むことができ納得してサービスが提供できるよう取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	会話や活動などを通じて、一緒にそのときの気持ちを、共有できるように心がけている。本人や家族から得る情報をもとに、活躍できる場面を作るようにしている。		様々な場面で一緒にその時の気持ちを共感し、支えあう関係を大切にしながら関係を築いていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	お手紙や面会時に利用者の近況を伝え利用者の事を理解してもらっている。また、困っていること、悩み、要望をきく機会を設け気持ちを共有できるよう心がけている。		家族の思いを受け止め、家族の協力を得ながら一緒に本人を支えていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族からの情報のもと、家族と一緒に過ごす時間を大切に、一緒に外出する機会や食事をする機会を設けている。		本人と家族がより良い関係が築けるよう、職員が仲介役となり支援していきたい。
30 馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族だけでなく、友人、同僚、お弟子さんなどの面会がある。また、馴染みのある場所への外出をしたり、本人の希望をきいて、止むを得ない場合は家族へ支援してもらえるよう努めている。		本人の思いや希望を聞いて、家族の協力を得ながら実現できるよう対応している。馴染みの人との関係が途切れないよう、必要に応じて職員が介入し支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の個性を見出し、それぞれの関係を見極め、良い関係作りができる様支援している。		利用者同士の関係に配慮しつつ、お互いに支え合える様支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了した後も、利用者のことで相談があったり、気軽に電話や、遊びに来るなど、関係が続いていることが多い。		退去しても継続的な関わりを大切にしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から本人の想いをくみ取り、その実現にむけて取り組んでいる。会話が困難な場合であっても日々の様子や家族からの情報をもとにアセスメントを行っている。		本人の意向を大切に、常に利用者の視点にたって考え支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族の情報をもとに、本人のペースで以前と変わらない生活ができる様支援している。家族の協力のもとで、本人の使い慣れた家具などの持込を行っている。懐かしい装飾品や、花などを飾り落ちつけるような配慮をしている。		以前と変わらない生活が継続できるよう、本人、家族から情報を得て支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の体調やペースに合わせ、本人の出きる事・出来そうな事をよく観察し、表情・しぐさから一緒に行うようにしている。		本人の状態を見極めて、個々の状態にあった関わりを行っていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	その人らしく生活ができる様、個別に具体的な介護計画を作成している。本人や家族に要望を聞いたり、日ごろの関わりの中で気付いた事を職員間で意見交換し、介護計画の作成に活かしている。		本人、家族の意向や要望、職員の日々の関りの中で気付いたことなどを取り入れた介護計画を作成していきたい。その為に、職員は利用者の状態を把握し、本人、家族と話し合う機会を持つ。また、介護支援専門員に適切なアドバイスを求めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に職員全員で、モニタリング、カンファレンスを行い意見交換を行っている。本人の状態に合わせ、その都度、本人、家族の意向を取り入れ、必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。		状態に応じ臨機応変に家族や職員を交えて見直し、検討を行い、利用者の状態に応じた介護計画を作成していきたい。
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個々の記録と一緒に介護計画を入れ、介護計画を見ながら記録が書けるよう、また、ケアの振り返り出来るよう工夫している。出来事だけでなく、その時の表情や言ったことなど状況を詳しく記入し、介護計画の見直しに活かしている。		記録・申し送りなどで情報を共有することで、利用者の状態の変化に気づくことができ、その状態に合わせた対応策を検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠方からの家族の面会がある時は、家族の要望に応じて本人と一緒に宿泊していただいている。また、本人の身体状況や家族の状況に応じて、受診や外出の送迎など必要な支援にも対応している。		本人、家族の状況・要望に合わせ、柔軟に対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアさんによる、音楽コンサートや、災害、緊急時の対応について消防の協力を得て、利用者、職員ともに実践している。地域の老人クラブに入っており定期的に行っている方もいる。		本人の意向を聞き、必要を思うことは地域資源を活用し協力体制を作っていきたい。
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人、家族からの要望がないため行っていない。		今後、本人・家族の意向や、必要に応じて支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター職員による、権利擁護・成年後見人についてのお話を依頼したり、情報交換している。地域包括支援センターと協力体制である。		今後、本人・家族の意向や必要となった場合地域包括支援センターと協働していく
43	かかりつけ医の受診支援  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携している医療機関より定期的な訪問や緊急時にも相談できる体制になっている。これまで個々がかかって医療機関へも継続的に受診できるよう支援している。		利用者の健康状態の把握に努め、連携している医療機関に報告・相談をする事で、早期発見・早期対応をこころがけていく。また連携医療機関だけでなく、かかりつけの医療機関とも情報提供を行い継続的に支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の症状や対応方法を相談できる医療機関が確保されている。情報を提供することで対応のアドバイスを頂いている。		情報を提供し、適切なアドバイスや治療を受け、本人がより良く生活していけるよう支援していく。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携している医療機関より定期的な訪問があり健康管理の相談をしている。日頃より看護師と連携をとり、緊急時にも相談できる体制である。看護師による緊急時の対応について勉強会なども行っている。		利用者の変化や健康面での心配がある時は、その都度相談し早期対応を行っていく。実践に結びつくよう、定期的に緊急時の対応の勉強会を行っていききたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	認知症のある入居者の入院を受け入れてもらえる医療機関を確保している。入院時は医療機関に情報を提供し、入院先との連携をとって家族の希望を聞き、退院に向けた働きかけをしている。		入院先よりこまめに連絡をとり、状態の把握に努め、家族と相談しながら、早期退院に向けて調整をおこなっていききたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時には家族へ看取りについて説明しているが、看取りの状況になった時に医療機関から家族へ説明があり、家族の意向を聞き、職員間でも話し合いを行いながら看取りへ向けての支援をしている。現段階では具体的な看取りへ向けての方針はない。		本人、家族、かかりつけの医療機関との話し合いを行い取り組んではいいるが、看取りへ向けての具体的な方針はないので準備をしていききたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	連携している医療機関で健康管理をしてくれている為、相談や緊急時には対応できる体制ではあるが、現在、看取りに向けての「できること・できないこと」の見極めまでは医療機関と話し合っていない。		連携している医療機関と話し合いの場を持ち、方針をもとに看取りへ向けての支援について検討し、準備をしていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>都度職員、医療職と話し合い、環境が変わっても本人が安心して生活が出来るよう、情報の提供・交換を行っている。</p>		<p>本人、家族から不安はないか聞き、受け入れ先への情報提供を行っていききたい。退去後も受け入れ先と連絡体制をとり安心して生活できるよう支援していききたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>家族からの情報と、了解を得て、本人の慣れ親しんだ呼び名で呼んだり、本人の理解度に応じた質問や説明方法をとっている。</p>		<p>プライバシーを損ねるような言葉かけをしていないか職員間で話し合う機会をもち、日常的に確認していききたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉かけや対応はゆっくりを心がけ、穏やかな雰囲気を作るようにしている。じっくりと話を聞き、本人にとってわかりやすい表現を使い、身振りなどを交えて対応し、一人ひとりが選べる場面を作っている。</p>		<p>本人にとってわかりやすい表現で話す機会を作り、本人の希望や思い、感じとると共に、働きかけを工夫し選択したり決めたりする場面をつくっていききたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その方のペースに合わせ、起床や食事の時間・入浴など、その日の本人の状態に合わせて対応している。</p>		<p>本人のペースを大事にし、本人の希望に添えるよう取組んでいきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>何を着るか服を選んでもらったり、外出・イベント時は女性入居者にお化粧を促す援助をしている。近所の理・美容院を利用したり、行きつけのお店がある方は、そのお店にいけるよう支援している。髪、髭などは、声かけで自分で出来るだけ整えてもらえるようにしている。</p>		<p>生活の中で身だしなみに気かけ、オシャレをする楽しさを感じていただけるよう支援していききたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>調理・盛り付け・配膳・片付けなど、本人の状態に合わせて一緒に行っている。献立も希望を取り入れている。心身の機能状態に合わせて、刻むなどの対応をしている。また、楽しんで食事が出来るよう、盛り付けに工夫し、職員も一緒に食べながら、さりげなくサポートしている。</p>		<p>食事の準備、片付けを利用者の状態に合わせて参加していただく機会をつくり食事の楽しさを感じていただきたい。また、本人の希望を取り入れたメニューや外食に出掛けたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の状況に合わせ、希望時に促している。喫煙・飲酒については医師と相談し、本人の健康状態に合わせ対応している。決められた場所での喫煙・飲酒を設けている。		本人の楽しみとして、日常的に楽しめるよう支援していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を利用して、排泄のパターンを把握すると共に、本人なりのサインから、誘導を行っている。日中・夜間のほか、外出時や本人の体調など状態に合わせて、下着・パット・オムツを使い分けている。		出来る限りトイレでの排泄が維持できるよう支援していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日のバイタルサインを確認し、職員も個人の体調を見極め、本人の希望に添えるよう対応している。入浴を拒む方には、声がけを工夫して試みている。		本人の希望に応じて入浴が出来るよう支援していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自室のほか、フロア等にソファを置きくつろげる場をつくっている。その人の生活習慣を把握した上で、適度に体を動かす機会を作り、生活リズムをつくるようにしている。		夜間、安眠できるよう、日中で本人の負担にならない程度で活動を促していきたい。またくつろげる場としての環境づくりを心掛けたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人が得意とする事に参加する場面を作り、出来たことを一緒に喜ぶ。一人ひとりの出番や役割が持てるよう配慮し、対応している。また、個々の生活習慣や過去の生活歴を把握し、その人の楽しみや気分転換の場を設けるようにしている。		本人の得意とする事、好きな事が楽しめる場面をつくり、張り合いのある日々を過ごせるよう支援していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が可能な方、本人の希望に合わせ、財布を持ってもらい、困難な方には、物を選ぶ、お金を渡し支払う場面を作っている。		個々の希望や力に合わせ、お金を使うことの支援をしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望や、気分転換を兼ねて、散歩・買い物・外食等に出かけられるよう支援している。歩行が困難な方でも車椅子を利用して戸外へ出ることを支援している。イベントや季節に合わせて、ドライブ外出をしている。		本人の希望や状態に合わせて外出の機会を作って生きたい。また外出する事で開放的な気分を感じていただき、楽しみの一つとして、イベントや季節に合わせて外出をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみてほしい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日々の会話の中で探り、また家族からの情報をもとに、本人の思いがかなえられるように対応している。場所によっては家族に相談し協力を得ている。		本人の思いが実現できるよう家族の協力を得ながら支援していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	いつでも電話をかけられるようにしている。電話をかける事が困難方には、電話を取りつぎ話してもらえるよう支援して。手紙を書く機会を設け、やり取りする機会をつくっている。		家族や大切な人とのつながりが継続できるよう支援していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪ねて来られるように、面会時間を設けていない。笑顔で挨拶するよう心がけている。		訪問者が本人と快適に過ごせるよう、職員の対応、環境作りをこころがけていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	理解し実践している。自分たちのケアの振り返りを行い意見交換を行い日々予防に努め取り組んでいる。		職員の身体拘束への意識を高めていき、予防に努めていきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけない取り組みをしている。一人で出来そうなことは、見守り、様子をみて声かけをしている。利用者が外へ行くようしているときは一緒に付き添い、出かけるなど安全に配慮し対応をしている。また、入所時にSOSネットワークの利用について承諾を得ている。		本人の様子をみながら安心して外へ出られるよう対応を継続していく。
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録などは居間や食堂で行い、利用者の様子を感じ取れる場所で書くようにしている。夜間は定時で巡回を行っている。		さりげなく利用者の様子を見守り、付き添いを行い安全に過ごせるよう対応していく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	生活に必要な物は、危険のないよう十分に注意し、自由に使用できるよう配慮している。注意の必要な物については使用後片付けるなどして取り組んでいる。		危険な物を全てなくすのではなく、危険のないよう充分注意していくと共に、利用者の状態に合わせ検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	看護師や消防署の協力を得て、勉強会のテーマとして取り上げたり、参考となる資料を配布し目を通すようにしている。また、様々な状況を想定して、避難訓練や緊急時の対応の訓練を行っている。一人ひとりの状態に応じて対応できるよう、日頃より職員間で話し合いをしている。また、事故後は事故報告書を記入し、事故の振り返りと対策を考え、同じ事故が起きないように取り組んでいる。		事故報告書を活用し、職員全員で事故防止に取り組んで行きたい。また予測されると思われる事に対し、職員間で検討を行い、早期に取り組んで事故防止に努めたい。
70	急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作成し、素早く対応できるようにしている。勉強会のテーマとして取り上げ基礎知識を学ぶ機会を設けている。消防署に依頼し応急処置や心肺蘇生法などの講習を行っている。		マニュアルを活用した勉強会を行って行きたい。今後も定期的に緊急時の対応の講習を行って行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を実施。現在、日中を想定しての避難訓練しか実施していない。		近隣住民の参加、協力を得るため、運営推進会議で呼びかけていく。災害時のマニュアルを作成していく。日中夜間を想定して訓練の実施をしていきたい。
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	本人の危険が伴う時は、取り組みについて家族に説明し理解をいただいている。その取り組みも、その人にとって苦痛にならないよう、職員間で話し合いをし、快適に過ごしてもらえようように対応している。		利用者の状況を伝えて、対応や取り組みについて家族に伝えて、了承を得た上で対応してる。今後も、状況をに応じて家族と相談し、対応策を考え、個々のリスクについて考えていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定や、普段の様子やいつもと違う様子を記録に残し、体調の変化の早期発見に努めている。勤務者同士で相談し、迅速な対応をしている。		利用者の普段の様子を把握し、いつもと違った様子や、本人のサインに気づけるよう努めていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の生活ファイルに処方箋を綴り、個々の内服薬の内容・副作用・服薬量を確認し、理解に努めている。特に、内服が変更になった場合には、状態の把握を注意深く行っている。内服時は、その人の状態に合わせた内服介助を行い、経過を記録に残し、変化を見ている。		個々の内服を把握した上で、内服ミスがないよう確認を徹底して行っていく。確実に内服するまで本人に付き添い確認を行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	運動・活動や腹部マッサージを行うと共に、乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れている。個々に合わせて水分を促すようにしている。		便秘を防ぐよう、食事の内容に配慮し、様々活動を取り入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせて、食後に歯みがき・うがいを支援している。就寝前には必ず、歯みがきを行い、口腔内の状態を確認している。また、年に1回、かかりつけの歯医者にて無料の口腔内の診察を行っている。		歯磨きや義歯の手入れ・装着についてかかりつけの歯医者の医師を招き講習会を行い、実践している。職員も口腔ケアの重要性を理解し、食後の口腔内の清掃に心がけている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要な人には水分チェックを行っている。水分量が一日を通して適量が確保できるよう、本人の好みや、タイミングをみて促している。利用者の状態に合わせて、食べる量に気をつたり、献立作成時、本などを用いて簡単なカロリー計算や、バランスに配慮して支援している。また、個々に合わせ不足している栄養が含んでいる食材を促すようにしている。		栄養バランスを気をつけながら、個々の状態や習慣に合わせて支援していく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種をしている。利用者、職員だけでなく、外来者にもうがい・手洗いをすすめている。塩素系漂白剤を薄めた物を、トイレ・食堂などに置き使用後はすぐ消毒し、手すりやドアノブの消毒を行っている。出来るように対応している。職員の理解を深めるためにも参考資料を配布している。		職員・利用者だけでなく、来客者にも手洗い・うがいを促している。職員の意識を高めながら湿度・室温に配慮し、消毒を行い感染の予防に努めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・調理器具・布巾など使用後は消毒するようにしている。食材は国産の物を使うようにしている。生ものはその日の内に使うようにしたり、作りおきはしていない。		常に、衛生面では清潔にするよう心がけていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節感を意識的に取り入れる工夫や、写真を貼ったり近況を伝えたりし、来客者が入りやすい明るい雰囲気作りをしている。		明るく出入りしやすい玄関であるよう、掃除や環境作りをしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内に馴染みのある、また懐かしい装飾品や花等を置き、心地よい音楽をかけるなど、落ち着けるような配慮をしている。また、季節を感じてもらえるような装飾を行っている。臭いや照明などに配慮し清潔感に配慮している。		利用者の馴染みのある物や懐かしい物、一般家庭にある物を置き、家庭的で落ち着ける空間作りを心がけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内各所に設置してある長ソファーや、一人がけソファーで利用者同士が楽しく会話されたり、時には一人で気ままにすごせたりと、くつろぎのスペースをつくっている。		どこにいても安心して過ごせる生活空間作りをしていきたい。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人と家族と相談をしながら以前から使用している家具や装飾品を持ってきて頂いている。馴染みのある家具や生活用品で居室の空間作りをしている。		利用者が安心して生活して頂けるよう配慮していく。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめに換気を行い、気になる臭いがこもらないようにしている。フロアや各居室に湿度計を設置し、室温・湿度を気にかけて、調節を行っている。		トイレには消臭剤を置き、いやな臭いが続かないよう配慮している。湿度・室温を気をつけながら利用者の体調管理にも気をつけ快適に過ごしてもらえるようにしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	広いフロアや季節関係なく活用できる中玄関・テラスを利用した散歩や活動を行っている。また、身体状況に合わせて活用できるトイレの設置や、スポットライトの活用、居室・共有スペースの戸の色を変えるなど利用者にとって安全で安心して暮らせるような環境作りをしている。		利用者にとって生活しやすい生活空間となっている。今後も、利用者の状況に合わせて、環境作りを工夫していきたい。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できる事・できない事を見極め、個々の利用者の状態に合わせて支援している。コミュニケーションが困難な方であっても、見本を見せたり、使いなれた言葉を使うなど関わりを工夫している。		日々の関わりの中で、出来る事・出来ない事を見極めていく。出来る事、得意な事、好きな事に対しては、積極的に取り組めるよう働きかけていきたい。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りには花壇や畑を作って楽しめるようにしている。また、中玄関・テラスを利用し、活動や食事、お茶会をしたりとくつろぎのスペースとして活用している。		今後も、中玄関・テラスを活用した活動を取り入れていく。また利用者自ら、行ってみたいと思えるような空間作りをしていきたい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>関わりの中で本人の意向や思いを聞き、会話が困難な方には家族に聞いたり、生活歴などからアセスメントを行い、その思いや意向が実現できるよう努力している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>一緒にお茶をしたり、たあいもない会話をして過ごしている</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>本人の生活習慣やペースに合わせている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員は利用者が生き生きとした表情・姿で生活をしてもらえるよう日々ケアの振り返りや話し合いを行っている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>個々の利用者の行きたい所への希望を聞いて実現できるよう努力している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>連携している医療機関があり、いつでも相談できる体制であり、また日々の職員による利用者の状態の把握と変化の気づきにより異常の早期発見と早期対応にて過ごせるよう努力している。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者の状況に合わせ、その都度対応し安心して生活してもらえるようにしている</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>家族とのつながりを大切にし、利用者の事を報告すると共に、気軽に気付いた点や、困った事などを話して頂けるよう声をかけている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>ほぼ毎日、家族、友人などの面会がある</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない  運営推進会議で話し合いを重ねることで、地域の方々とのつながりが深まり互いの行事へ参加する場面が多くなっている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない  働きやすい環境であるよう努めており、ストレスを発散できる場を設けるようにしており、楽しんで仕事をしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない  職員のスキルアップをすると共に現状に満足せず、より良い支援をしていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない  遠慮して言えない事も多いので、家族と話す機会を大切に、思いをくみ取りながらより良いケアを実践していきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)